

谷根千工房

<https://www.fukkoku.net/yanesen>

2022年9月
販売開始

No.KD0391 2022年9月

電子復刻
[fukkoku.net](https://www.fukkoku.net)

良書を絶版がない世界へ

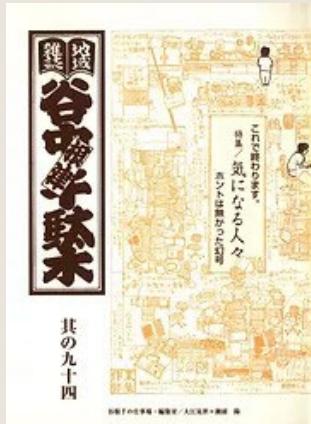
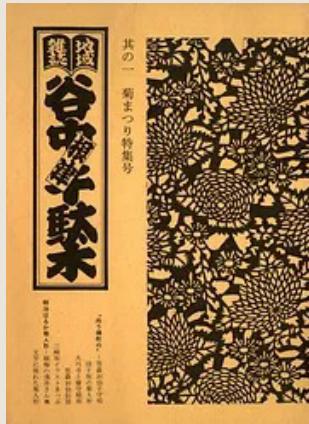
谷根千94冊+別冊17冊 本体価格

同時アクセス1 70,000円 ※1冊1,000円

同時アクセス3 105,000円 ※1冊1,500円

A5判 平均64頁

地域雑誌「谷中・根津・千駄木」94冊



日本全国の地域雑誌の手本となった、地域雑誌「[谷中・根津・千駄木](#)」は1984年10月に森まゆみ、仰木ひろみ、山崎範子の20代の女性3人によって創刊され、2009年夏まで季刊で94号が発行されました。

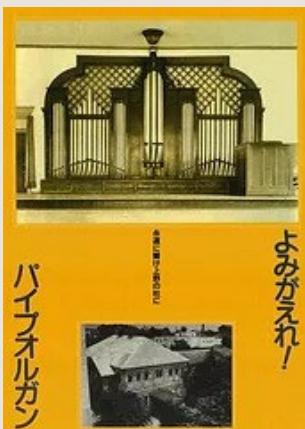
それと並行して地域内の歴史的環境の保護、近代建築や民家の保存・活用をはじめ、たくさんの市民活動が行われました。

それらがデジタル化されたものを、電子雑誌としてお届けします。

各号の目次・概要などはこちら

→<http://www.yanesen.net/arc/index.html>

別冊「谷根千」17冊



多くの別冊も刊行されました。その内の一冊が地域雑誌「谷中・根津・千駄木」と同時に電子復刻されます。

電子復刻される号のリストはこちら

→<https://www.fukkoku.net/yanesen>

各号の概要などはこちら

→<http://www.yanesen.net/books/others/>

*上記はカタログ作成時の情報です。予告なく変更となる場合がございます。

春陽堂

<https://www.fukkoku.net/shunyodo>

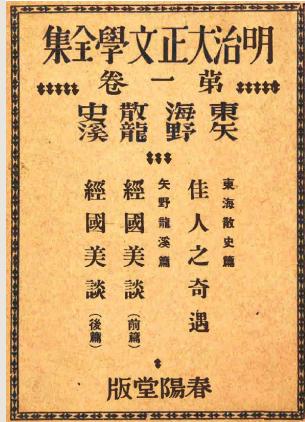
2022年9月
販売開始

No.KD0391 2022年9月

電子復刻
[fukkoku.net](https://www.fukkoku.net)

良書を絶版がない世界へ

明治大正文学全集 全60巻



本体価格

同時アクセス1 汎い240,000円、1冊5,000円

同時アクセス3 汎い360,000円、1冊7,500円

B6判 平均609頁

大正末期に販売が開始されたいわゆる「円本」は一大ブームを呼び、多くの出版社から1冊1円の文学全集が刊行された。本全集もその一つとして昭和2年から7年にかけて刊行された。

全60巻からなり、坪内逍遙、尾崎紅葉、幸田露伴、森鷗外、泉鏡花、徳富蘆花、正岡子規、島崎藤村、徳田秋声、夏目漱石、永井荷風、谷崎潤一郎など現在もよく知られる文豪の作品が1冊に収められている。

ほかに何人かの作家の作品をまとめたものや、短編集、(当時の)現代作家篇、和歌俳句篇、詩篇、戯曲篇など多様な文学・文芸作品が収められている。

明治大正期の文学・文芸作品の全貌を垣間見るに最適。

各号の当時の表紙・作品名などはこちらから

→<https://www.fukkoku.net/shunyodo>

新註校定 國譯本草綱目 全15巻および月報



本体価格

同時アクセス1 汎い60,000円、1冊5,000円

同時アクセス3 汎い90,000円、1冊7,500円

A5判 平均597頁

中国の薬物(漢薬)を扱う書物を本草書と呼ぶ。「本草綱目」とは、中国の明朝の篤学者李時珍がそれまでの中国の薬物の文献を整理し、さらに從来の本草書にないもので当時使われた薬物を加えて撰した大著作である。

李時珍は、1657年に凡そ1900品目に及ぶ動・植・鉱物界の薬用天然物を新しく考えた区分に分け補正論述した。

その後175年を経て趙學敏が本草綱目にはない清代の生薬を「本草綱目拾遺」として編撰、これを「本草綱目」に加えて国訳したのが「国訳本草綱目」である(昭和4年6月初刷発行)。

本書はこれを原本に新註校定が行われ、第13巻、第14巻には原本にない注が付され、第15巻の索引では現在の動植物名からも引けるように付加されている(昭和48年3月新註増補版発行)。

なお、電子版は昭和54年6月発行の創業百年記念版によっている。

各巻の副題などはこちら

→<https://www.fukkoku.net/shunyodo>

*上記はカタログ作成時の情報です。予告なく変更となる場合がございます。



紀伊國屋書店

デジタル情報営業部

TEL:03-6910-0518 FAX:03-6420-1359

〒153-8504 東京都目黒区下目黒 3-7-10

ict_ebook@kinokuniya.co.jp